

「麗澤の馬とふれ合う会」

～2018年度の活動をふり返って～



「麗澤の馬とふれ合う会」

麗輝大学馬術部

「麗澤の馬とふれ合う会」について

「麗澤の馬とふれ合う会」は、地域の障がい児その他の子供達に、馬とふれあう機会をもつことで心身を癒し、さらに自立に向けて何がしかの手がかりを見つけていただくことを目的に 2013年9月に発足しました。

本会には医師もセラピストも居ませんので、「ホースセラピー」として活動するものではありません。参加を希望される方には、「本会はセラピーを行なうものではない。馬とのふれ合いを持つことで得られた気づきをご家庭に持ち帰り、状況の改善や自立に向けて生かしてもらう。そういうことでご理解いただけるのであれば」という趣旨を十分に説明した上で参加してもらっています。

今期の参加者は7組でした。活動に際しては、麗澤大学所有の馬2頭（麗輝、麗峰）を使用し、麗澤大学馬術部の学生およびボランティア数名のご協力を得て、月2回ぐらいのペースで活動を続けて居ます。

乗馬や馬を扱う経験の有無は問いません。「一緒に活動してみたい」、「ボランティアとして手伝ってみたい」・・・という方がおられましたら、下記問い合わせ先までお気軽にご連絡ください。

「麗澤の馬とふれ合う会」

連絡先メールアドレス: ht2011@reitaku-u.ac.jp

平成30年度（2018年4月から2019年2月まで）は7組の方にご参加いただきました。そのうち、ホームページへの掲載を承諾いただいた参加者6組の保護者、麗澤大学馬術部員1名の参加レポートを紹介することで、平成30年度の活動報告にかえさせていただきます。

なお、プライバシー保護のため、文中の名前等はすべて仮名を使っていますのでご了承ください。

（文責：「麗澤の馬とふれ合う会」代表 中野 千秋）

1. 田中 恵美（理沙ちゃんのお母さん）

田中 理沙ちゃん（10才）

発達障害、聴覚過敏

今年度も「馬とふれあう会」に参加させていただき、ありがとうございました。理沙は、年長の頃からでしたでしょうか？もう何年もお世話になっていますが、学生さんとの交流をととても楽しみにしています。初めは引き馬での乗馬体験のみでしたが、年々、お馬さんのお世話や厩舎のお掃除など、色々な経験をさせていただき、本人は部員の1人のような気分で楽しく参加させていただいています。

今年度は3月末から気持ちが落ち着かず、学校では気持ちが不安定すぎて、私が一日中付き添う状態でした。そんな中でも馬とふれあう会では楽しい時間を過ごすことができ、ゲラゲラ笑いのいつもの理沙の姿を出せていたので、お馬さんや学生さんたちをととても信頼し、安心できる存在なんだなあ～と思いました。



聴覚過敏で特定の苦手な音（咳、キャーキャー声、泣き声など）がある理沙ですが、苦手な音にも気を配っていただきました。風邪気味の学生さんが話をするすると咳が出るからと、Bluetoothを持ってきて、Bluetoothを通して会話をしてくれたりしたこともありました。その機械音が楽しかったようで、我が家ではしばらくBluetoothごっこが続きました。

夏場、乗馬後に長々時間をかけて、お馬さん観察をさせていただいた時は、お馬さんの体に浮き出た血管に注目したりしていました。毎回、その時々によって着眼点が変わるので、その様子を見ているのも楽しかったです。

いろいろな国から来た留学生の方々（編者注：この時はザンビア、ウガンダから来た大学院の留学生2名でした）とも、言葉が通じないながらも、片言でやり取りをしたり、楽しく交流させていただき、とても良い経験をさせていただきました。

せっかく良い経験をさせていただいているので、普段の生活にも生かせないかと思い、学校の夏休みの自由課題にお馬さんをテーマにしたものと考え、今年は卵の殻を使ったモザイクアートを作らせていただきました。普段はあまり根気のない理沙ですが、この作品は「麗峰を作る！！」と、一生懸命に取り組んでいました。いつも麗輝君に乗せていただくことが多いのに、この時は何故か麗峰君でしたが、それも理沙らしさ…ですね。



夏休みの自由課題の作品： これを見た部員の最初の一声「あっ、麗峰だあっ！」

最近では、一輪車で麗輝と麗峰に干し草を運ぶ作業を何度かさせていただきました。バランス感覚が良くない理沙、一輪車にたくさんの干し草を積んで運ぶことは、バランスを取るのが大変な様子でしたが、その様子を見た学生さんが、少し量を減らしてくれるとスイスイ運べたり、いろいろ理沙の様子を見てサポートもしていただきました。



一輪車で干草運び
バランスを取るのが難しい

今年度も、色々な貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。また、来年度もよろしくお願い致します。

2. 中山 実佳（和哉くんのお母さん）

中山 和哉くん（7才） 軽度精神発達遅延（自閉症スペクトラム）

息子の和哉は年少時に自閉症と診断されました。コミュニケーションが取りづらく、精神年齢が約1歳幼い感じで、指示理解を苦手としています。4月から小学校に入学し、環境の変化がありました。小学校では支援学級の情緒クラスに属しています。馬とふれ合う会にも、「また参加したい」と本人の希望で今年度も参加させていただきました。

昨年度同様に、和哉は馬に乗るのではなく紐を引いています。やはり「青い紐」の麗峰くんが良いというこだわりがあります。部員の方たちと一緒に麗峰くんと歩き、たまに「麗峰くんに触りたい」と言って止まります。徐々に麗峰くんと距離も近づいてきて、触り方も、はじめはサッと触るだけだったのが、今では撫でるように触るようになりました。また、鐙に近づき乗ろうとするのですが、足元（鐙）が不安定だと分かると、すぐに嫌がります。足元が安定していないと怖いらしく、乗馬までにはまだ時間がかかるかもしれません。しかし、麗峰くんと歩くことは楽しいと感じているようです。

和哉は小学生になってから、犬が嫌いになってしまいました。以前、道を歩いている時に突然、犬が和哉に近づいてきました。吼えられたわけではないのですが、急に近くにきたことが怖かったようです。そのため、遠くに犬を見かけるだけで怖がってしまう和哉ですが、不思議なことに、犬よりも大きい麗峰くん、麗輝くんには怖いという感情はありませんでした。犬を怖がるようになり、馬とふれ合う会もどうなるかな？と思いましたが、「麗峰くんに会いに行くよ」とうきしていました。楽しいと感じてくれていて良かったと思います。

和哉はいつも馬場を歩いています。私も少しだけ馬場を歩いたことがあります。しかし、砂の上を歩くのは思っていたよりも大変でした。それを休みながらでも30分程歩くのは良い運動になるなと思います。小学生になり、運動不足のため肥満気味になっているので、ちょうど良いかなと思っています。

また和哉は電車が大好きで、麗峰くんと歩く時も電車に見立てて歩いています。「快速電車が発車します」と言って歩き出し、麗峰くんに触りたくなった時は、部員の方が「駅に止まります」と言って下さり、和哉に合わせていただきました。歩く時も、馬の後ろは危険なので、麗輝くんの後ろに行かないように注意

していただいたり、たくさんサポートをしていただいています。

和哉の番が終わると、隣の馬場を道具でならすのがお約束で、ぐるぐる回っています。ならすというより遊んでいます。・・・。「僕が綺麗にします」と意気込んでいるので、私も一緒にやっています。

馬場は僕が綺麗にします！



今年度は参加回数が少なくなりましたが、その中でも和哉は、麗峰くんや麗輝くんはもちろん、中野先生や部員の方々、他の参加者の方々に会うことを楽しみにしてくれています。いつもと違う仲間に会うことはとても刺激的で、私自身もとても良いリフレッシュになっています。乗馬をすると姿勢が良くなっているかなと感じたり、視線が高いのでいつもと違う景色が楽しいです。いつか和哉と一緒に乗馬をしたいなと思います。

来年度も和哉なりのペースでふれあう会に参加して行けたらと思います。

3. 坂田 美奈子（晋助くんのお母さん）

坂田 晋助（14才）

軽度の発達障害（アスペルガー症候群に近い）

最初に、中野先生をはじめ、馬術部の皆さん、ボランティアの皆さん、今年度も大変お世話になり、本当にありがとうございました。貴重なお時間を私たちのために使ってください、心から感謝・感謝です。

坂田晋助（柏市在住の中学生男子）の母です。軽度の発達障害があり、言語力に遅れはないのですが、人とコミュニケーションをとること、人の多い場所がすごく苦手な息子です。学校で、突然話しかけられたりすると、返事の仕方を考えてしまい、困って固まって、本人は疲れ果ててしまう状況になります。

そんな息子ですが、馬と触れ合う会に参加させていただくようになって、麗

峰に乗せてもらって、馬術部の皆さんとは30分間、ずっとしゃべっています。親のいない空間で、緊張することもなく、ニコニコしながら、自分の思ったことを自由に話しています。今まではゲーム関係の話だったようですが、最近、過去に自分がすごく嫌な思いをしたこと（愚痴！？）も聞いてもらったそうです・・・えええっ！馬術部の皆さん、ホントすみません。いつも優しく温かい雰囲気、そのままの自分を受け入れてもらえて、息子は「あ～、今日も楽しかった！癒されたよ～！」と、嬉しそうにしていました。

馬と触れ合う会で、お兄さん&お姉さんと、いろいろ会話できることが自信につながり始め、学校での休み時間に、クラスの友達と遊んだり、雑談出来るようになったようです。

先日、馬とふれ合う会って、本当すごいなあ！・・・って、改めて気づかされることができました。馬とふれ合う会の時は、いつも元気100倍！ニコニコで、いろんなおしゃべりして、みんなに元気&笑いを提供してくれる女の子がいます。先日、全く別の場所で会う機会があったのですが、彼女にとって、そこが慣れた場所ではないこともあり、ニコリともせず、ひと言も話せず、じっと固まっていました。緊張しすぎて、すごーい疲れる・・・グッタリするくらいストレスなのだろうなあ・・・と。馬とふれ合う会での元気にはしゃぐ彼女しか知らなかった私は、全く別人な姿に、もうただただビックリ・・・。

馬と触れ合う会は、慣れないうちは緊張感もあるかもしれませんが、でも、気がつけば、その場にいるみんなが、自然と笑顔になっていて・・・付き添いの保護者も、麗峰&麗輝を見ているだけで、笑顔をもらって、リラックスできて、優しい気持ちになっている気がします。その場にいると忘れがちですが、子供たちが、変に緊張せず、いつもの自分でいられる貴重な場所になっています。参加できる時間を大切にしていきたいと思います。

ちなみに、個人的には、麗輝が中野先生の目を盗んで、馬術部の学生さんたちにいたずらを仕掛ける姿を見るのが大好きです・・・絶対、わかってやってくれるよねっ！（笑）でも、子供たちには決していたずらもせず、おとなしく待ってってくれる麗峰&麗輝、これからも子供たちをよろしくねー！

中野先生、馬術部の皆さん、そして、麗峰&麗輝！本当に本当に、ありがとうございます！来年度もよろしくお願いします！

4. 大塚 香織（伸夫くんのお母さん）

大塚 伸夫 くん（7才）
発達障害（自閉症、知的障害）

伸夫は自閉症7歳の男の子で、2年目の参加となります。今年は思うように参加できませんでしたが、久しぶりに「今日はお馬さんだよ」と伝えると、嬉しそうに「うま、うま」と朝から楽しみにしています。

まだ一人で乗ることは出来ませんが、大好きなお父さんと馬に乗ることが、彼にとって至福の時間に思えます。中野先生や馬術部のお姉さん達に「天使の笑顔」と言って下さり、とても嬉しく思います。

本人の生き生きした表情をみて、来年度はもっと参加できる機会を増やしていけたらと思います。

中野先生、馬術部の皆さんをはじめ、今年度もお世話になりました。ありがとうございました。



5. 佐久間 綾子（春香ちゃんのお母さん）

佐久間 春香ちゃん（15才）
知的障害、難聴

本年度も本当に大変お世話になりました。娘には、聴力障害と知的障害があります。どちらも重度です。聴力は、年齢を重ねて、聞こえは悪くなります。娘も、ちょうどその時期を向かえ、かなり混乱をしています。

さらに、思春期真っ最中で不安定になりがちですが、乗馬だけは笑顔で楽しく臨めたと思います。祖父の死で悲しい最中でも、馬は受け止めてくれていたように感じます。もちろん、中野先生や学生さんの支えがあつてのことです。数年越しの思いを寄せている！？馬術部のお兄さんも卒業と聞いています。いつも嫌な顔もせず、笑顔で接してくださって有り難く思っています。

小学4年生からお世話になっている娘も、今春、高校生になります。言葉を発することの少ない娘ですが、写真を見て思い出に浸ることもあります。念願が叶い、憧れのお兄さんと写った写真も宝物となっています。お陰様で、このような思い出の貯金も増えました。本当に有り難うございました。

憧れのお兄さんと！？



6. 川端 俊子（孝之くんのお母さん）

川端 孝之くん（11才）
発達障害、知的障害

今回で4年目になりましたが、今年もみるみる成長して、気づけば私と変わらない体重になってしまいました。ずっと末っ子として小さいイメージだったのですが、今は大人顔負けの食べっぷりです。動物好きなのも相変わらずで、家で飼っている猫ちゃんのお話しとかになると止まらなくなります。

今年度は夏休みの宿題でお馬さんのことでノートにまとめたいなんてお話もしたりしていましたが、私の体調不良もあり、結局実現することが出来ませんでした。また機会があればチャレンジしてみたいと思います。

今年度は学生さんたちとのお話にもさらに花が咲くようになりました。とは言っても、自分の今興味のあるお話ばかりで、ゲームのお話が多かったように思います。

今後はせっかくのお馬とのふれ合う機会なので、お馬情報をいろいろと聞いて楽しめる時間にできたら良いのではないのかと思っています。

馬に乗ること自体は参加当初から変わらず大好きなようです。普通ではなかなかの機会に定期的に参加することで、動物への優しい気持ちが年々増しているように思います。

今回は参加する中でタヌキ騒動のお話があったりして、そのことには興味津々で、タヌキを見ようと必死の時期もありました。こちらは自然豊かな環境なこともあり、四季折々の風景なども楽しめて、親子共々そう言う意味でも心癒されるとても貴重な一時でした。

毎回、中野先生をはじめボランティアの方々にも優しく接していただき、楽しい時間を過ごしなが、良い部分を引き出していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

今年度も貴重な体験やご支援頂きましてありがとうございました。

7. 杉山 櫻子（麗澤大学馬術部3年生）

私たち馬術部にとって「馬とふれ合う会」はとても重要な活動です。顧問の先生、親御さん、ボランティアの方たちに支えられ、障がいをもつ子どもたちが馬にふれ合いながら身体と心をほぐす手伝いをするすることで、子どもたちが成長できるよう見守っています。

私は入部した1年生の4月からこの活動に参加していますが、最初はかなり戸惑いました。障がいのある子どもと何を話せば良いのか、全くわからなかったからです。勇気を出して話しかけてもコミュニケーションにならず、なかには元気すぎて会話どころではない子もいました。根が人見知りな私は、初対面の子ども達と話すことすら困難で、涙が出そうでした。途方に暮れた私は、先輩たちを真似して、とにかく笑顔で話しかけ、子どもたちの目線に立つことを意識しました。

そのうち、障がいがあるからといって何か特別なことをしようと肩の力を入れなくても良いと気づきました。子ども達は、馬に乗ることで日々の葛藤や疲れを癒やしています。私たちはその手助けができれば良いのだと思うようになりました。もちろん、子ども達のもつ障がいに合わせて配慮すべき事はありません。

す。しかし、必要以上に「この子は障がいがあるんだ」と意識する必要はないのです。そう思えた時から、私は馬の会をさらに充実したものにできました。

学年が上がり上級生になってからは、どの子がどんな障がいがあり何に気をつけるべきかといった共有事項は下級生に伝えましたが、どう接するかは彼ら自身に任せました。部員達には、新しい友だちを作るような気持ちで子ども達と関わって欲しいと考えたからです。私たち部員同士が温かい場を作り、私たち自身もリラックスすることで、子ども達が馬の会を大切な時間にしてくれると思っています。

子ども達のなかには、馬に触れることはできるけれど乗れなかったり、馬に乗った後に毎回違う部位が気になって観察したりと、とても新鮮な態度で馬に接する子もいます。その姿勢は私たちにとっても刺激的で、馬のことについて何か聞かれても答えられるように勉強したり、子ども達の成長を目の当たりにしたりする機会にもなっています。馬に乗って私達と他愛もない会話をする事で、少しずつ心を開き、過去のトラウマや悩みなど人に話しにくいことを、その子のペースでゆっくりと話してくれる時もあります。名前を覚えてくれて呼び合ったり、一緒に遊んだりするのも恒例になりました。そのときは、私達の活動が、たとえ少しであっても子ども達のためになっているのだと実感し、とても嬉しく思います。また、そのような環境をつくってくださる先生、親御さん、ボランティアの方たち、そして日々の活動をともしする部員達にも感謝しています。

馬の会を通じて得たことはこれからも生かし、来年度の活動にもつなげていきたいです。この活動がさらにより良いものとなるよう、私自身も励んでいこうと思います。

(以上)